
手作りだから...汚くてゴメン。

国後旺

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

手作りだから…汚くてゴメン。

【Nコード】

N2925D

【作者名】

国後旺

【あらすじ】

12月24日。今日は彼と、初めて過ごすクリスマス。でも、彼は信じられない提案をしたんだ…。(ジャンル：恋愛)

（前書き）

初短編です。

主人公達の年齢、外見上の特徴は、

「敢えて」書きませんでした。

では、どうぞ（<―>）

- - 12月24日 - -

今日は今年、私が一番楽しみにしていた日。

私には彼氏がいる。

…付き合って一年も経ってないけど。その人と今日は一緒に過ごす予定だ。

…でも、彼は信じられない事を言ってきた。

その日の朝、彼から携帯に電話が掛かってきた。

「…時間……まだ10時じゃん……もう少し寝かせてよ、もう…」

しかし、鳴り響く着メロ。

彼氏からなんだし…電話を切るのも悪い気がしたので、出てみた。

しばらく喋った他愛の無い話。

…でも、

何か大事な事を伝えたいような感じだったので、ちょっと聞いてみた。

「何か他に言いたい事があるの？」

そう聞けば早いのだが、色々と回り諄^とい言い方をして聞いた。…何故か照れくさかったから。

すると、彼は観念したように言った。

「今日は俺の家で過ごさないか？」

はつきり言って失望した。

今日はツマらない日になるだろう…そう思った。

夜。

私は今、彼の家の前にいる。どこにでも在る、大きすぎず小さすぎない、普通の家だ。

実際に家の前まで来ると、不思議と「仕方ないか」という気が起る。

「本当なら彼と一緒に何処かに出掛けたかったが、今年は彼がいる。それで我慢しよう。」と思った。

彼の家のインターホンを押す。

家の中から誰かが走ってくる音がする。

玄関ドアが開いた。中からの突然の光に一瞬、目がくらむ。

そこに彼はいて、「あがつて」というので、従った。

…流石にいつもとは違った。何というか落ち着きがない。迷子の子猫ちゃんのようなようだ。

リビングに案内された。

彼が突然クラッカーを鳴らした。ネタバレした簡単な一発ギャグを、百回訊かされた後のような空気が流れた。

その空気を諭ったらしく、彼は私に頭を下げた。謝った。ちょ、そう

いうの、止めて。

彼は私に椅子を用意してくれたので、とりあえず「ちょこん」と座った。

彼は台所にいて、ピンクと黒のエプロンを着けていた。なかなか似合っている。花の妖精さんのようだ。

やがて彼は、何かを持ってきた。彼が持ってきた物…それは……

ケーキ？だった。ん？ これケーキ？

「チーズケーキだよ」

彼が苦笑いを浮かべながら言った。

あ、やっぱりケーキだった…。それにチーズケーキらしい。どこでこんな色のチーズケーキを買ったのだろうか。…ん？

ふと、彼の指を見える。

絆創膏ばんそうこうが貼られていた。それも…何枚も。

「……もしかして…」

「……作って…くれたの？」

彼は苦笑いしながら答えた。

「チーズケーキ好きって…言ってたから……」

手作りだから…汚くてゴメン」

………最悪だ…私………

「ううん…私こそゴメン」

あまりの事に涙が零れ落ちた。

「なんでキミが謝るんだ？」

彼は飛ぶペンギンでも見るような、不思議そうな顔をしていた。

「此処に呼ばれた時、今日は何処にも連れて行ってくれないんだな
って…」

でも仕方ないって…此処で我慢しようって思ったの…。

でも…こんな事してくれてたんだなって……そう思ったら………
っ」

最後まで言えなかった。彼があまりにも強く抱きしめたから。

「泣かないで……なんか困る……」

彼は自分の胸に、私の頭を抱きながら言った。甘い吐息が耳につぐ。

「……無理だよ……。だって……前よりも……」

「……良かったら、ケーキ食べてみて」

変わらぬ笑顔で彼は言った。

「うん」

フォークを刺して「ぱくっ」一口食べてみた。

「んー！ おいしい！ー」

見た目は好み焼きみたいで、ちょっとアレだけど、本当に美味しかった。

「良かった……」

隠し味に「海苔のりの佃煮」入れといて良かったよ」

「何入れちゃってんの!?!」

(後書き)

.....

メリークリスマス

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2925d/>

手作りだから...汚くてゴメン。

2010年10月29日13時47分発行